

## The Art of Refereeing Q & A

コラムに、「以前、レフリーのみならずプレーヤーにもレフリングの聖典『The Art of Refereeing』が広く読まれました」とありますが、「プレーヤーも読む価値があるのですか？」という質問に対し「そうです」と答えるだけでは適切でないと思いますので、少し付け加えておきます。

The Art of Refereeing は レフリーのみならず、プレーヤーや観客にとっても、読む価値があり、ラグビーを本当に楽しむために役立つものです。

EDITOR'S NOTE に次のように書かれています。

It is hoped that players and spectators, as well as referees, will read the book. It may help them to be a shade less outspoken, a little more charitable towards the referee's mistakes; perhaps even a little less certain whether he has in fact made a mistake. Players, in particular, should gain a great deal from an increased understanding of the referee's aim and a keener insight into the Laws and their interpretation; and it is from the players, it has always to be remembered, that most of the referees of the future will come.

復習考察しましょう。

「レフリーのみならず、プレーヤーにも観客にもこの本を読んでもらいたい」とレフリーだけでなくプレーヤーと観客にも率直に希望しています。

この本を読むことによって、プレーヤーや観客が、[ 幾分かは口を慎むようになり、またレフリーの失敗に対して少しは寛大になり、彼らが失敗を犯したかどうかに関心を持つようになるだろう ] と述べています。

とりわけ「プレーヤーにとっては、レフリーの目的とするものを理解することによって得るところが多いのであろうし、ルールとその解釈に対する鋭い洞察力を養うことができるであろう」と願望を付け加えています。さらに、「忘れてはならないことは将来のほとんどのレフリーは今日のプレーヤーから生まれるということです」と将来のことまで指向しています。同じことが指導者についても言えると思います。

この本の内容を簡単に紹介することは不可能ですが、内容の編成を示す目次をみれば、ラグビーへの視点の高さと内容の豊富さがわかります。

- 第1章 ルールの変遷
  - 第2章 ルールの研究
    - 1. ルールの読み方
    - 2. 定義の重要性
  - 第3章 一般的原理
    - 1. レフリングの心理学
    - 2. 首尾一貫と決断
    - 3. アドバンテージルール
    - 4. 何故そのプレーヤーがいけないのか
  - 第4章 フィールドにおけるレフリー
    - 1. 服装・装備
    - 2. キックオフ前
    - 3. インプレー、笛と合図
    - 4. よい位置取り(細かくそれぞれの位置)
  - 第5章 レフリーとレフリーソサイエティ
  - 第6章 区分できない事柄
- 付記

EDITOR'S NOTE に、「レフリングは学問でなく芸術であるから、理論的に解明し尽くすことはできない」とも書かれています。内容は系統立っていて分かり易い表現になっています。残念ながら余り広く読まれないように思いますが、今後広く読まれて、先人達の努力の賜物であるこの本の内容が認識されて、ルールを生かす文化が発展していくことがラグビーの普及発達に必要なと思います。